

以下のアドレスにある[FISAC-IRSF 2011-2012 Judging Manual]を日本語訳したものです。逐次訳ではなく、意味を訳した個所がいくつもあります。

<http://www.fisac-irsf.org/downloads/2011---2012-rule-books>

□ 訳者注、コメントなど

**注意：これは2012年大会用のルールです。**

出場全選手中、なわとびを行っている割合が、難易度とクリエイティビティーの最高点となる。つまり、演技時間中、常に半数の選手がなわとびを行っており、残りの半数の選手が待機している場合、満点の半分の点数が獲得できる最高点となる。

## Chapter 4

### ワールドカップ

#### Article 1 基本的な情報

- 最低でも4カ国が参加しなければ開催されない。
  - 1カ国あたり1チームでの参加で、パフォーマンス時間は4分~8分。
  - 1チームあたり8人から24人。
  - 得点を決めるのは参加人数の数ではなく、演技中でアクティブに活動している選手の割合。
  - ワールドカップの得点は、難易度点とクリエイティビティー点の和からミスが減点することで得られる。合計100点からメジャーミスは1点、マイナーミスは0.5点を減点する。
  - ミスは3人の審判によってカウントされる。3人は演技中に縄が壊れた場合、もう2回目のパフォーマンスができるかどうかを決定する。
  - もし2回目のパフォーマンスを行うことが決まった場合、できれば演技中に審判はすぐにコーチに連絡しなければならない。コーチは、できれば演技中に、そこですぐに演技を続行するかそこで演技を止めてもう一度演技をするかを選択しなければならない。2回目のパフォーマンスが行われる場合は2回目の点数が最終点数となる。
  - 点数は各セクション毎に10点満点で採点され、それらは基本的に以下の通りである。
- 0-2 基本レベル
  - 3-4 初級レベル
  - 5-6 中級レベル
  - 7-8 上級レベル
  - 9-10 最高レベル

#### 出来栄え (Execution)

各チームは音に合わせて色々ななわとび要素をスムーズに行う。各要素は音楽を考慮して振付けされ、できるだけ多くのメンバーとできるだけ少ないミスで行う必要がある。チームは洗練され、精力的で、革新的な演技で、かつその演技が絶え間のない難しいなわとびを強調するようにできるよう努力する。

演技は下記の要素を含まなければならないが、これだけに縛られる必要はない。

単なわとび、ダブルダッチ、長なわ、トラベラー、チャイニーズホイール

各要素は、チームメンバー全員の最大限の関与が必要で、どんな長さの縄を使っても構わない。新しい形のなわとびは推奨されるが、必須ではない。

点数は全体としての難易度となわとび技の複雑さによって決まる。多回旋、なわとびの種類、ジャンパーのインタラクション・トランジションの複雑さを含む。音楽の使用は義務であり、全ての面において演技と合うように使わなければならない。言いかえると、なわとびが音楽の効果を引き立たせ、音楽の効果がなわとびを引き立たせなければならない。

#### Part A 難易度点 (40%)

縄レベル	10点
なわとびの要素	10点
なわとびの種類	10点
インタラクション	10点
トランジション	10点
合計	50点

50点×4/5=40点

#### Part B クリエイティビティー (40%)

技術的な質	10点
フォーム	10点
オリジナリティー	10点
音楽の使用	10点
合計	40点

50点×1=40点

#### Part A 難易度点 (20%)

楽しませる要素	10点
滑らかさ	10点
細部へのこだわり	10点
観客とのインタラクション	10点
合計	40点

40点×1/2=20点